



会場アクセス

ウイング・ウイング高岡

〒933-0023 富山県高岡市末広町 1-7
TEL. 0766-20-1800 (高岡市生涯学習センター)

●JR 高岡駅 (古城公園口/旧北口)、万葉線 (路面電車) 高岡駅前駅から徒歩 1 分

【飛行機でお越しの方】

- ・小松空港～〈連絡バス/小松駅または金沢駅行き〉～小松駅/金沢駅
- ・小松駅/金沢駅～〈JR 北陸本線普通または特急〉～高岡駅
- ・富山空港～〈連絡バス/高岡駅行き〉～高岡駅

【JRでお越しの方】

- ・富山駅～〈JR 北陸本線普通または特急〉～高岡駅
- ・金沢駅～〈JR 北陸本線普通または特急〉～高岡駅

【お車でお越しの方】

- ・高岡 IC から国道 8 号線 (富山・高岡市街・氷見方面) を直進 →「昭和町」交差点を右折し県道 64 号線へ→「片原町」交差点から県道 23 号線へ→「末広町 (南)」交差点を右折

※近隣の「高岡中央駐車場 (有料)」がご利用いただけますが、スペースに限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

参加申し込み方法

下記の申込内容を、財団法人たんぽぽの家まで、FAX、Eメール、郵送でお知らせください。なお、郵送またはEメールでお申し込みの際は、必ず「ケアする人のケアセミナー申込」と明記してください。お申し込みいただいた方には、後日、受講票をお送りします。

●お申し込み先

財団法人 **たんぽぽの家**

〒630-8044 奈良市六条西 3-25-4
TEL : 0742-43-7055 FAX : 0742-49-5501
E-mail : carecare@popo.or.jp

ケアする人のケアセミナー 参加申し込みフォーム

FAX 0742-49-5501

※□に印をつけてください。

ふりがな		ご所属 (よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。特になければ記入不要です)	
お名前			
ご住所 (□ご自宅/□勤務先等) ※受講票をお送りします。送付は 10 月下旬～ 11 月上旬です。			
TEL (□ご自宅/□勤務先等)		FAX (□ご自宅/□勤務先等)	
Eメール (□ご自宅/□勤務先等)			
分科会の選択希望	第 1 希望 . . .	<input type="checkbox"/> 分科会 1	<input type="checkbox"/> 分科会 2 <input type="checkbox"/> 分科会 3 <input type="checkbox"/> 分科会 4
	第 2 希望 . . .	<input type="checkbox"/> 分科会 1	<input type="checkbox"/> 分科会 2 <input type="checkbox"/> 分科会 3 <input type="checkbox"/> 分科会 4
弁当注文 (700 円)	<input type="checkbox"/> 注文する (当日、弁当代を申し受けます)	交流会 (500 円)	<input type="checkbox"/> 参加する (当日、参加費を申し受けます)
	<input type="checkbox"/> 注文しない		<input type="checkbox"/> 参加しない

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。

ケアする人のケアセミナー

“わたし”から始める支えあい



近年、家族力の弱体化によって、ケアをになう家族の負担が増大しています。また、地縁、血縁といったコミュニティはケアの支えになりますが、その“しがらみ”によってケアをになう家族が助けを求めにくくし、コミュニティとのつながりに苦悩するケースも少なくありません。

このようななか、支えを必要とする人の力になろうと、これまでにない新しい支えあいのコミュニティづくりが始まっています。ケアで孤立しがちな人たちが、社会のなかで居場所を取り戻していくために、地域に根ざしたいのちを支える取り組みが広がることは新しい時代の大きな希望です。

“わたし”から助けを求めること、“わたし”から手を差しのべること、そうした一人ひとりの支えあいから生まれる身近なコミュニティが、ケアすることに価値をおく社会の創造につながっていきます。

今回のセミナーでは、そのような社会の創造への道筋を探るため、支えを得るために声をあげること、それを受け止め支え手になること、そして支えあいの仕組みをつくることの意義や方法について、さまざまな実践を手がかりに学びあいます。

日時

2012年 11月 17日 (土)
10:20～15:30 (受付 10:00～)
※交流会は 16:30 まで

会場

ウイング・ウイング高岡
〒933-0023 富山県高岡市末広町 1-7 (高岡駅前)

主催

財団法人 住友生命社会福祉事業団、財団法人たんぽぽの家

企画

ケアする人のケアセミナー高岡実行委員会
(男性介護者の会 みやび、コミュニティハウスひとのま)

後援

富山県、高岡市、北日本新聞社、北陸中日新聞、
NPO 法人 Nプロジェクトひと・みち・まち

参加費
無料

要
申込み

お申し込み / お問い合わせ

財団法人 **たんぽぽの家**

〒630-8044 奈良市六条西 3-25-4

※FAX、Eメールは 24 時間受付可。

TEL : 0742-43-7055

FAX : 0742-49-5501

E-mail : carecare@popo.or.jp

ケアする人のケアセミナー プログラム

※諸事情により、プログラムの一部を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。



10:00~

受付

10:20~10:50

オープニングアトラクション

「大空へ飛べ」(高岡市)のみなさんによるステージ

10:50~11:00

開会あいさつ

11:00~12:30

看取りの家(ホームホスピス)ー“とも暮らし”の地域へ

核家族化した現代社会では、自宅で終末期を過ごすことが難しくなっています。家族が側にいないひとり暮らしの人が、孤独に最期をむかえることも少なくありません。また、家族が側にいても、周囲の助けが得られなければ自宅での看取りは難しい現状があります。肉親ではないけれど、寄り添い、生活をともにする“とも暮らし”の実践から、家族のあり方、専門職の役割、そして地域の未来について考えます。

市原 美穂 (NPO 法人ホームホスピス宮崎理事長)

海外のホスピスの視察を経て 1998 年から「ホームホスピス宮崎」設立に参画。2000 年に認証を受け、2002 年から現職。その後、2004 年に空いている民家を借りて「ホームホスピスカあさんの家」を開設。2006 年に「毎日介護賞」(毎日新聞社)、2008 年に「社会貢献者賞」(社会貢献支援財団)、2009 年に「新しい医療のかたち賞」(医療の質・安全学会)を受賞。現在、宮崎市内に 4 軒を運営。

講演

12:30~13:30

休憩

13:30~15:30

分科会 (右ページ①~④のいずれかを選択してください)

※受付先着順のため、ご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

15:30~16:30

交流会 (希望者のみ・参加費別途)

お茶やジュース、軽食をご用意しています。セミナー登壇者、参加者がいっしょに感想や情報交換など自由に語らう場です。お気軽にご参加ください。

分科会

1

居場所の可能性 一本人・家族・支援者の立場から

誰でも気軽にやって来て、おしゃべりしたり、学んだりする地域のなかの「居場所」。人びとがゆるやかにつながる憩いの場は、お互いの存在を認めあい、自尊心を回復することで、生きづらさを越えていく力となっていきます。発達障害という生きづらさを抱える人を取りまく社会状況を知ったうえで、地域の中の「居場所」の意味や可能性、さらには社会の中に「居場所」を作るための考え方や方法について語りあいます。

宮田 隼、ほか (コミュニティハウスひとのま)

伊藤 あづさ (ふれいん・ゆに〜くす代表)

コーディネーター: 内山 尚子 (たんぼぼ相談支援センター相談員)

分科会

2

支えあいから仕組みづくりへ

わが国の医療や福祉の政策は家族によるケアを基本に組み立てられています。だからこそ、ケアする家族が声を上げることが、地域を変え、制度を変えていこうとするときに大きな力になります。家族がぶつかる困難や苦悩はどのようなものか、家族会をはじめとした支えあいの場にはどのような可能性があるのか、さらには地域の小さな支えあいが制度や政策を変えていくための道筋について考えます。

平尾 隆、ほか (男性介護者の会 みやび)

野入 美津恵 (NPO 法人おらとこ理事長)

三富 紀敬 (静岡大学名誉教授)

コーディネーター: 森口 弘美 (財団法人たんぼぼの家)

分科会

3

ケアする人のグリーフケア

ケアする人が抱える苦悩のひとつに、喪失の悲しみがありません。大切な人を亡くしたときに、大きな悲嘆とどのように折りあいをつけていくかは、介護を担う家族だけでなく、専門職にとっても大切なことです。悲嘆とどのように向きあったらよいか、心のいたみを抱える人にいかに寄り添うことができるかを学びながら、その喪失が人としての成長につながるためのケアのあり方について考えます。

市原 美穂 (NPO 法人ホームホスピス宮崎理事長)

高橋 聡美 (つくば国際大学 医療保健学部 看護学科 精神看護学教授)

朴木 節子 (富山市呉羽町 介護・看取り経験家族)

朴木 由利子 (富山市呉羽町 介護・看取り経験家族)

コーディネーター: 小畑 万里 (日本社会事業大学通信教育科非常勤講師)

分科会

4

体験しよう!アサーティブ・コミュニケーション

自分が本当に必要としている支えを得るためには、まずはそのことを誰かに伝える必要があります。しかしながら、大声で主張することを美徳としない日本社会においては、「困っている」「大変だ」「助けてほしい」となかなか言えない人も少なくないのではないでしょうか。アサーティブなコミュニケーションとは、相手の気持ちに配慮しながら自分の意見を率直に伝える技術です。言いたいことが言えず我慢してしまったり、逆に感情が先立って思いがきちんと伝わらないときに役立つ、さわやかな自己表現の方法を学ぶワークショップです。

亀田 紀子 (ウィメンズカウンセリング富山)

越野 誠子 (ウィメンズカウンセリング富山)

戸瀬 希久代 (ウィメンズカウンセリング富山)

沙魚川 万紀子 (ウィメンズカウンセリング富山)

定員 30人